

桂監督ら迎え、第1回埼玉県上映実行委員会開く

映画「わが青春つぎるとも」伊藤千代子の生涯」第1回埼玉県上映実行委員会を11月26日(金)に浦和区のクラブAで開催。この会議は、今まで治安維持法同盟県本部内に実行委員会準備会として3回の会議を開催してきましたが、県内の団体にも協力を要請して、規模を拡大して開きました。

この会議には、桂壮三郎監督と藤田廣登原作本執筆者を迎えて、お二人から映画製作・上映の意義や撮影の進行状況や撮影秘話なども話され、「監督・映画チームの4つの約束」①必ず完成をめざします。②上映開始時期を早めます。上映債権取得者優先権上映会として、第1次上映運動は4月15日〜6月10日。第2次上映運動は参院選後からスタート。③完成有料披露上映会4月2日(土)に銀座プロサム中央会館ホールで開催、④撮影終了記者会見と全国交流会1月18日(火)午後1時半、全労連会館で開催)などの報告がありました。

動の経験交流が続き、監督も含め参加者からの質問や悩みなどに丁寧に応えました。

最後に、桂監督からは、「この映画は、若い人が見て欲しい作品であり、社会を変えよう動き出して、治安維持法をはじめめとした国家権力が襲いかかり、身を引いてしまう人が多い中、たたかう女性の姿がえがかれている。そして、弾圧され投獄され、拷問など、また権力者は、あの手この手で誘惑し、思想を変えることを迫る・・・若い無名の女性が、矛盾にめざめ、今の社会を変えようと立ち上がり、たたかう姿を、時代を超えて、今の若い人に見て欲しい作品になっている。ぜひ、埼玉の皆さんの力を貸していただき、この映画を草の根から広げて欲しい」などと埼玉に対する期待を熱く語りかけました。

参加者は、この言葉に大きな拍手で応えました。



「不屈」No570付録 埼玉版 (No398)

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
埼玉県本部
〒330-0063
さいたま市浦和区高砂
2-3-10 黒澤ビル3B
電話 048-824-0094
振替 00110-7-83245

2021年「関東ブロック交流会」が埼玉で開催

治安維持法同盟の2021年関東ブロック交流会が11月14日(日)、さいたま市大宮区高鼻コミセンで開催されました。新型コロナウイルスの影響で、昨年に続き、一日だけの短時間での交流会となりました。

司会進行役に、千葉県の小松、埼玉県の大野両事務局長が選出され、吉田万三中央本部副会長が開会のあいさつと黙祷。続いて、来賓として、日本共産党の荻原初男埼玉県委員長があいさつ。両者は、総選挙結果について、「野党共闘は失敗」などの与党の宣伝やメディアの報道の「ウソ」、根拠のなさを実際の得票と議席数に即して厳しく指摘。自民・公明の与党が、議席数を減らしていること、補完勢力の維新は伸びたが、前回の補完勢力には「希望の党」もあり、それとの比較ではやはり得票・議席数とも減らしている



司会を務める大野事務局長

新加入同盟員紹介

- 綾部 澄子 新座市
- 加藤 宣子 さいたま市見沼区
- 中村 郭司 飯能市
- 高橋 正二 所沢市
- 山本 浩 富士見市
- 飯塚 頼夫 さいたま市南区
- 須田 幾世志 川口市
- 山本 幸彦 狭山市
- 酒井 勇介 さいたま市浦和区
- 五十嵐 孝弘 鶴ヶ島市
- 須田 真明 さいたま市見沼区

国会請願署名推進コーナー

【個人署名】 (415筆)

- 佐々木 慶子 宮代町 5筆
- 篠田 健一 東松山市 10筆
- 埼玉県労働組合連合会 13筆
- 全日本年金者組合埼玉県本部 40筆
- 同 飯能支部 25筆
- 埼玉AALA 134筆
- 新日本婦人の会岩槻支部 32筆
- 大宮平和美術会 20筆
- 日本共産党埼玉県委員会 14筆
- 同 さいたま地区委員会 42筆

【団体署名】 (2団体)

- 全日本年金者組合 飯能支部
- 大宮平和美術会

署名合計 (11月末現在)

個人署名 1186筆
団体署名 11筆

年末募金ありがとうございました

田中久子、小池莊市・三枝子、梅野茂文、広瀬久雄、芝山孔夫、下村すみよ・茂、大野英子、角田晃信、豊原美代子、木村邦三、新祖 章、篠田健一、増子典男、古江昌江、新島善弘、和田義盛、佐藤俊也、犬木茂好、宮川雅之、戸谷和男、宮地さかえ、加納真阿部勝、小倉啓介、原田隆子、柴山たか子、杉田実、丸藤栄一、横田正利、白井篤子、松高良彦、伊藤初美、富家靖子、東山寿美子、秋山君江、村崎政幸、大和田哲、長橋久枝、寺島萬理子、田中昌子、山口公悦、小野民外里、(敬称略・11月末現在)

〈国会請願三項目〉

- ①国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- ②国は、治安維持法犠牲者に謝罪し、賠償を行うこと
- ③国は、治安維持法による犠牲の実態を調査し、その内容を公表すること

ことなど、「市民と野党の共闘」の成果を確認し、さらにこの道を発展させる必要があると強調されました。

次に、同盟中央本部の田中幹夫事務局長が、増本一彦会長に代わってあいさつ。総選挙結果を受けて、改憲への動きが急展開する危険性があると指摘。来年の参院選の取り組みの重要性を訴えました。また、来年6月に予定されている全国大会までに2万人の同盟建設を提起、関東ブロックで800人の拡大が必要と熱く訴えられました。

昼食後、午後は討論。まず、各県本部の報告として、千葉県、埼玉県、山梨県が発言。埼玉は、大野事務局長が発言。埼玉の総選挙の結果の特徴を述べ、この交流会に向け史上最高の峰を築いて迎える事が出来た3つの教訓(①目標に魂を入れ、②映画上映と一体に支部づくり、③世代継承)を紹介。さらに一般論ではなくさらに3本柱の強化点を実践する中で、勢い

を作りだしてきたことなどを紹介し、全国大会と来夏の参院選に向けての決意を表明しました。

支部活動の交流では、当日配布された発言集に沿って、10支部から発言。埼玉からは、トップ発言として岩槻支部の渡辺支部長が発言。パンフでは、行田・羽生支部の経験が掲載されていました。発言を辞退し、代わって春日部支部の福家さんが発言(支部発言要旨は、別途掲載予定)。

最後の自由討論も含め全体では21名が発言し、埼玉からは、本山常任理事が南区での支部づくりめざしての会員拡大の経験と教訓、小室理事の総選挙のたたかいを振りかえつての発言等は貴重なものでした。

最後に、小松中央本部副会長が閉会のあいさつ。総選挙結果や討論の中心になった「支部づくり」や「支部活動の活性化」について、その基本となる構えや考え方を述べ、来年度は、山梨県での開催も報告され、1年後の再会をよびかけました。限られた時間ではありましたが、絞られたテーマに基づく、中身の濃い交流ができました。埼玉は、開催地の地元であり、準備も含め、受付、書籍販売などの要員で献身的に交流会成功のために奮闘されたことに、感謝を申し上げます。

「9条が危ない」草の根から声を!!
総選挙後、改憲策動が強まる中
早速「戦争させない! 埼玉の
会」が浦和駅頭で宣伝行動...

11月19日、新しくつくった「のぼり旗」を掲げ、「希望の楽団」も参加して、リレートークをしました。
リレートークでは、衆議院選挙が終わった途端、自民党や維新の会な



市民と野党の共闘を草の根で広げ 改憲発議阻止、政権交代めざそう

埼玉県平和委員会代表理事 二橋 元長

総選挙の結果、改憲勢力といわれる自民・公明・維新が衆議院で、改憲発議に必要な3分の2以上の議席を確保しました。

岸田首相は、選挙期間中はほとんど「改憲」に触れませんでした。選挙が終わった途端、「精力的に取り組み」と意欲を示し、議席を伸ばした維新の会の松井代表も前のめりになっています。

9年にわたる安倍、菅政権のもとで、国家安全保障会議設置法、特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認の閣議決定、安保法制、戦争法、共謀罪法、敵基地攻撃能力保有言明、学術会議人事介入、改憲手続き法、国民投票法改訂、デジタル関連法、土地利用規制法など、「戦争する国」づく

とモノ言えぬ「暗黒社会」づくりが強行されてきました。当面、岸田政権は米国のバイデン政権との約束のもと、「台湾有事」に備えた参戦態勢づくりと、そのための自衛隊の攻撃的な大軍拡、その障害となっている憲法9条改憲に向けて、攻勢に出ることが予想されます。

市民と野党の共闘を、地域で草の根でさらに広げて、これらの企みを許さない取り組みを強めるとともに、来たる参議院選挙で改憲勢力を少数に追い落とし、政権交代への足掛かりを確かなものにしませう。同盟の出番です。(国賠同盟埼玉県本部 常任理事)



熱風

先に闘われた総選挙は、日本の歴史上初めて、治安維持法犠牲者を源流に持つ政党が政権にかかわる歴史的選挙でした。それに危機感をもった支配

勢力は、必死にその推進力として奮闘する共産党に攻撃を集中する。反共攻撃で、共闘を分断し、破壊する戦略をとりました。いま私たちは、歴史の教訓から学ぶ必要があります。かつて京都府知事の蜷川虎三さんは、朝鮮戦争の前夜、「反共は戦争前夜の声」と喝破しました。また、ドイツの反ナチの行動で知られる牧師マルチン・ニーメラの自戒を込めて歌った詩「彼らが最初共産主義者を攻撃したとき」を思い起こします。▼戦前の日本もドイツも、戦争準備の過程で頑強な反対勢力であった共産党を弾圧しました。やがてその弾圧は自由主義者や宗教者へと拡大して行きました。いまで言えば、反共は野党共闘つぶしの声です。▼悪質なデマまで使って攻撃するのは野党共闘の強力な推進力になった共産党を排除できなかったからで、自公政権の弱さと焦りの表れです。市民と野党の共闘は始まったばかり、いまこそ、草の根から声を挙げ、野党共闘の大道を前進させるため「国賠同盟が真価を発揮する時です。(池)

秩父事件 墓碑探訪

第3回 井上伝蔵の墓碑 篠田 健一



墓碑は秩父市下吉田井上にある。戒名は「覚翁良心居士」。建立したのは伝蔵の弟業作である。伝蔵は江戸城御用達の歴史を持つ蔵造りの丸井商店の六代当主で、明治一二(一八七九)年二五歳で村会議員に当選。明治一四年、戸長役場の筆生(二年後首座筆生)となり、一六年、東京の浅草から古妻を迎え、翌年布伝(ふで)が誕生する。商用でたびたび東京・横浜に出かけることで自由民権思想に触れ、自由党员となる。明治一七年、筆生をやめ、秩父自由民権会の請願や組織づくりに関わり、蜂起に際しては会計長に就任。皆野本陣離脱後、下吉田村閩の

【交通】西武秩父駅より吉田元氣村行バスで吉田総合支所前下車、徒歩五分。

斎藤家に二年間匿われる。この間、欠席裁判で死刑判決を受ける。明治二〇年、北海道石狩に渡り、伊藤房次郎と変名。高浜ミキと再婚して伝蔵は代書屋で働き、ミキは小間物・文具商を営み、三男三女をもうけた。札幌をへて野付牛(北見)に移住した。大正七(一九一八)年、腎臓病が悪化し、札幌の病院に入院。妻と長男洋に伊藤房次郎は仮名で本名は秩父事件の井上伝蔵であり、事件と来歴を三日かけて語ったという。六月二三日、野付牛で死去、享年六五歳。葬儀が行われた聖徳寺の過去帳には「此人埼玉秩父ノ人 明治十七年秩父事件ノ国事犯人」と記されている。葬儀には秩父から業作とその息子義久が参加、分骨を抱いて秩父に戻り、長男洋が同行し、下吉田村で葬儀が行われた。

『釧路新聞』の記者岡部清太郎は、長男洋を取材し「秩父風」を二四回にわたり連載。秩父事件が多くの人に知らされた。また、「秩父事件一二〇周年記念映画『草の乱』(神山征二郎監督)が製作上映された。その主人公は波乱万丈の生涯を送った井上伝蔵である。

矢島会長の卒寿を祝う



矢島恒夫会長が11月15日満90歳を迎えました。全国でも卒寿を迎えた現職会長は貴重な存在です。埼玉県の国賠同盟は11日、コロナ下でもあるので、常任理事会のあとささやかな「祝う会」を行い、14年にわたる会長の重職に感謝し、卒寿を祝いました。各人から矢島さんとの出会いなどがこもこも話され、参加者全員、矢島さんから元気をもらいました。また、同盟の理事で画家の鯨井洪先生が描いた「肖像画」を記念として贈りました。

同盟文芸

短歌

総選挙の「維新」の伸長目につきぬ許してならぬ改憲の動き「考えるよ、自分自身で」と来年の参院選に孫 目を輝かす 川口市 宮地 さか枝

俳句

重病脱し職場復帰す天高し水引草の花に雌雄のあるふしぎ 春日部市 浅子 薫衣 新米の価格暴落怒り顔 青黄赤三段染めの紅葉祭り 行田市 大野 辰男

「おい地獄さ」冬日に開く「蟹工船」 さいたま市 小池 莊市

川柳

意図的に共闘負けと嘘合唱 食パンの値上げ悔しい食の秋 春日部市 福家 駿吉

*初心者歓迎、毎月25日締め切りです